

巻頭言



「名村テクニカルレビュー」 第18号発刊に際して

取締役 常務執行役員 茅切 文男

アベノミクスによる円安・株高の流れによって日本の景気は上向き傾向ではありますが、弊社グループの主力である新造船事業においては、残念ながら2008年秋のリーマンショック以降厳しい生存競争を強いられております。

2014年10月に佐世保重工業が弊社グループの一員となり、伊万里・佐世保・函館の3拠点での新造船事業において統合効果を発揮することによって、企業体力の強化に努めております。

私は営業を管轄しており、3拠点の新造船受注営業を一手に担っております。大型・中型・小型の船型を織り交ぜて効率の良い営業活動によって、各拠点とも3年以上の仕事を確保することを目標にしております。

厳しいコスト競争力を強いられる環境ですが、弊社グループのプロダクトミックス方針に助けられて、バルカーが不調な現状においてもタンカーを中心とした受注活動を推進することができております。

因みに我々営業部隊が取り扱う船種は現状10船型にもなっており、ひとえに弊社の技術力・設計力が充実していることを証明しております。

製造業は技術力とコスト競争力が勝負であると言えます。顧客が要求する仕様を満足させる技術でしかも安く製造することが求められます。経験と実績に裏打ちされた技術、日々の改善により得られるコスト競争力。こうした技術力とコスト競争力を維持、向上させるために弛まぬ努力を続ける弊社グループの現場・設計の方々に感謝いたします。

新しい規則への対応など日進月歩で新しい技術開発が求められる今日ですが、日々の研鑽によってこれを克服し、より良い製品をより安く製造することがこの厳しい生存競争を生き残る方策であると考えます。

「名村テクニカルレビュー」も今回で連続18回目の発刊となり、益々その重要性を増してきております。新しい製品の報告、新しい技術の発表、研究開発の紹介など弊社グループの総合戦力が記載されております。

本誌を読まれた多くの方々からの忌憚のないご意見・ご講評をいただければ幸甚です。